

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人ちどり会
(ユニット名)	高齢者グループホーム 水仙の家
所在地 (県・市町村名)	三重県津市高洲町1060番地
記入者名 (管理者)	高士 章
記入日	平成20年4月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	隣近所には独居老人が多く、洗濯物は干してるか、姿を見ない日が続かないかなどスタッフがそれとなく気をつけ、安否を確認したり、バスが通っていない住宅地であり、車が必要ときや何かあったとき手助けできることを申し入れしてある。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価はリーダー以上の職員が検討、評価結果は会議で確認、検討し、問題点を改善できる方法を話し合い取り組んでいる。	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	本年から運営推進会議を開催できることとなり、評価の中で頂いた家族のアンケートの中での意見を、全体としてどうするかを検討した。会議での検討内容については、全家族にたより形式で報告し、把握してもらうようにしている。会議の持ち方は、委員を限定するのではなく、いろんな形でもつようにしており、行事と同時開催にしたり、次回は救命講習を一緒に受講してもらう予定である。	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村担当者とは情報交換しており、折にふれ訪問してくれている。	○ さらに連携を密にしていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	管理者は理解しており、本年遺産のことなどで問題のあった方に対して、成年後見人制度の利用なども家族と検討したが、最終的に他の方法にて解決した。	○ 職員については研修などを活用して、さらに周知していきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	ホーム内研修の中で、虐待防止法についての学習をし、資料は全員配布とし、再度虐待とは何かを確認しあった。ケアの基本として、人としての尊厳や痛みのわかるスタッフを育てているつもりである。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込みや入居前には必ず家族と話し、思いを聞き取り、ホームの考え方を説明することに時間をかけ、理解いただいた上で利用いただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中での不満をスタッフが聞けば、それをスタッフ間で検討、共有している。また、全体にかかわる内容の場合、話し合いなど意見を表出してもらう機会を作り、改善策を探っている。苦情申し出窓口も設置しているが、なかなか上手く活用できていないので、第三者委員の選出をしない、今年度時々の訪問を依頼したところである。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の利用料を原則現金払いにして、必ず月一回は来所してもらい、その際に状態説明や対応を相談している。二ヶ月に一回『ちどり会たより』で、暮らしぶりや連絡事項などをお知らせしている。急な変化などがあった場合は、そのつど連絡、報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時にはできるだけスタッフと話す時間をもち、自然な会話の中で意見は聞くようにしているが、いいにくい場合のために、玄関に意見箱を置いたり、苦情申し出機関のチラシなどを置いたり、苦情申し出窓口も設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務運営に関しては、スタッフ間で協議し、意見を調整して、最終判断を管理者がおこなっている。基本的な運営方針については、スタッフの意見で揺るがすつもりはない。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に合わせて、職員への説明を行い、理解、協力を得ている。利用者の緊急時、入院時の対応など、職員は時間外でも気持ちよく応じてくれており、家族からも喜んでもらっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は開設以来変動はなく、開設当初からのスタッフが多く、なじみの関係はできている。二ホーム間でのスタッフの異動はあるが、どちらのホームの業務もできるためであり、利用者にとってのダメージも少なくなっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内の勉強会を実施しており、また外部の研修へはできるだけ参加をすすめており、三年の実務経験者には資格取得のための費用助成や受験への協力体制をとって、昨年は一人介護支援専門員の資格をとってもらい、スキルアップを促している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>スタッフの経験などに合わせ、外部の研修やグループホーム連絡協議会の集いや交流会に参加してもらっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員一人ひとりとの時間を作り、プライベートのことも含め、話を聞くようにしたり、職員の誕生日前後に三日間誕生休暇をつけて、リフレッシュしてもらっている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の働きぶりを観察し、成果を評価し、リーダー、主任制をとっている。各行事の際には、ベテランと新人を割り当て、担当制により、やりがいをもてるようにしているつもりである。よい面を伸ばしていけるように、意見、提案を出しやすい環境を作ることが、運営者の役割と考えている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人が来所可能であれば聞き取りをし、本人の状態だけでなく、家族との関係などを見聞きさせてもらい、今どうしたいか、どうしてあげればいいのかを見極め、話をさせてもらっている。本人が来所できなければ、入院先などに訪問もさせてもらっている。ただ、本人の状態によって面談が不可能な場合でも、家族からの聞き取りにより、利用時に混乱のない様な最大限の配慮はしているつもりである。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用申し込みまでには来所頂き、見学の上、管理者がホームの運営方針などを説明し、家族からはこれまでの状況や、今の思いを聞かせてもらうことに時間をかけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りの中で、『今』利用を必要とされていても、満床の場合、バックアップ施設や他ホームを紹介したり、ほかのサービスの利用方法を薦めたり、家族の今の不安解消には心を砕いているつもりである。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空きがあれば、体験入居の形で入居してもらい、慣れてもらった上で本人、家族と話し合い、入居してもらったケースはある。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ともに暮らしていく中で、助け、助けられ、教え、教えられ、遊び、喧嘩もたまにありの生活である。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時も単に本人との面会だけでなく、ホールでともに過ごす時間を持ってもらうようにしており、家族と職員がそれぞれの家庭の話題なども普通にできる関係の方も多く、他の利用者のことも知ってもらうこともできているため、状態報告の際にも理解を得やすい。誕生会には家族も参加してもらうようにし、大きな行事の際には職員とともに準備から参加してもらっている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お孫さんまで一緒に祖父、祖母に会いに来てくださる場であるように心がけ、子供のいない方については、行事等への誘いかけによりお身内に一回でも多く面会に来てもらえるような働きかけを行っている。在宅時の周辺症状の激しかった方については、家族にマイナスイメージが強く、行事などに参加してもらい、本人の安定した様子を見てもらうことにより、新たな関係を築けるように努力している。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人の訪問や、以前のサークル活動への参加を、サークル仲間の協力を得ながら、積極的に支援している。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知度の軽度の方同士や、重度の方の状態を把握できない中度の方とのトラブルが生じることがあり、それぞれの性格などを考え、距離を置いたり、一緒に作業をしながら理解を深めるなど、職員が緩衝材となり、最善の状態であるよう模索している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も行事等のお誘いも兼ね家族に連絡を入れ、様子伺いをしたり、長期入院での退所の場合は、入院先への様子伺いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での一人ひとりの一言を大切にし、そこで出された思い(したいこと、嫌なことなど)に添えるように努めている。折に触れ「どう?」と聞く機会をもつように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の聞き取りの中で本人ならびに家族から、生活歴や食べ物の好き嫌い、どんな生活をしていたのかなどを探り、話の中から得た情報を共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	過去の生活歴、性格などを踏まえ、今の心身の状態を把握し、できることや、できなくなったこと、関心のあることは何かを探り、言葉で表現されることと、その奥にある真意をそれぞれ見極め、その人を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の思いを聞き取り、スタッフでケース検討会をした上で、介護計画を作成している。作成した計画をケース会議にて、全員で確認しあっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは四ヶ月ごとに行い、作成した計画は家族に確認してもらっている。体調の大きな変化などがあった場合などは、家族に思い、目標などを確認し、スタッフと協議の上変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルや毎日の心身の状態や受診、投薬の状況などを個人記録に記入し、一週間単位でスタッフ全員で確認するようにしている。この個人記録をもとにケース検討や、介護計画作成に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人の買い物やサークル活動、病院の受診など、家族と話し合い、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	高校生ボランティアには業務補助として来てもらっており、サークル活動を継続している方に関しては、市民センター・サークル仲間の協力をもらい、参加できている。地域の集会所とは日常的に協力体制をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点ではしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点ではしていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームかかりつけ医とは密接な連携ができており、月一回の往診にて、他の在宅時からのかかりつけ医にかかっている人も含め、全員の状態を把握していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応には常に注意を払っているつもりだが、ふとした言葉などでできなければならぬことがあり、スタッフ間で注意しあっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事や間食、散歩など生活のいろんな場で、「どうですか」「どれにしますか」の言葉かけ、場面を作るようにし、その人の希望に添えるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ペースとなるよう心がけているが、日々の生活の中で慣れなどで、どこかで職員が決めた段取りにならないように気をつけている。ただ、昼夜逆転の方に関しては、家族と話し合い、日中の離床時間を確保することとしているが、本人は機嫌が悪く、言動が厳しくなることがあり、短時間の午睡や退屈しない取り組みなど工夫し、本人の納得を得られる生活ペースとなるようにつとめている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	二～三ヶ月に一回理・美容ボランティアが来所してくれ、なじみの関係になって、利用者の好みも知ってくれている。美容院行きを希望される場合は、送迎の支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じ食事をともに食し、下ごしらえや配膳、片付けも能力に応じて一緒にしている。男性も在宅ではしたこともない後片付けもすすんでしてもらえるようになり、ご家族が驚かれることもしばしば。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日好きなあてを買ってきて、晩酌してもらっていた方がいらしたが、体調低下により呑まれなくなり、現在は飲酒、喫煙される方はいない。特別のおやつが欲しい方は一緒に買い物に行き、各自好きなものを適量買い求めて、居室にて楽しんでもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば(家族の了解を得ている方)してもらっている。お一人は居室に電話をひいて、自由に家族や友人にかけておられたが、体調変化にて現在は使用されていない。他の方ははがきを二枚ほどもってもらい、書かれたときに投函を支援させてもらう方や、交流のある中学生に年賀状を書いてもらったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族だけでなく、友人も日常的に来所してもらっており、食事や誕生会を一緒にしたり、職員も気軽に話をし、馴染みとなっている方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないのが当然と思い、指定基準の禁止行為については、スタッフ全員に周知しているが、ベッドから転落してしまう方について、床にマットを二重にしいたり、巡回回数を増やし、事故防止に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことの意味、かけないことにより何に留意しなければならないか、鍵をかけなければならない場合の意味などを理解しているが、激しい徘徊の流れで一人外出されてしまう方がおられる際には玄関施錠していた。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	それぞれのペースでの過ごし方を尊重しながら、所在確認、安全確認には留意している。一人で家へ帰ろうとされる場合、職員が付き添いにて歩いて出かけ、疲れた時点で戻ってこられている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱、はさみは一定の場所に収納し、すぐに使えるようにしてあり、包丁は下ごしらえで日々使ってもらっているが、スタッフの見守りはしており、確実に使用後収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人の投薬シートを活用して、誤薬予防をしている。本人の嚥下状態に合わせて、刻み食としたり、間食を嚥下しやすいものに変更したりしている。転倒予防については、歩行不安定な方については外出時は車椅子使用にて安全策をとったりしているが、その日の歩行状態により屋内でも見守りや一部介助、車椅子使用など柔軟に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	外部の研修会に参加してもらったり、7月にはAED講習も兼ねた救命講習を開催し、全職員に徹底するつもりである。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火事や地震想定避難訓練や緊急連絡網を利用した緊急連絡訓練など、年二回実施している。地域には、災害時の協力の必要性を届けている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	想定内のことについては事前に説明しているが、共同生活の中で生じるトラブルや想定外の本人の言動など、その都度判断し、家族に報告、相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日勤、夜勤の申し送り、連絡ノート、個人の記録ノートなどで情報の共有を図り、対応を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の投薬シートを使い、裏面に処方箋を貼付し、禁忌事項、副作用など確認できるようにしている。投薬に変更があった場合、個人ノートに記入し、全員で状態観察をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取確保や運動もかねた散歩への誘いかけや、野菜中心のメニューにするなどしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分でされる方は毎食歯磨きなり、入れ歯洗浄、口すすぎなどされている方、朝、晩だけという方はいらっしゃるが、介助の方については臥床してもらう際には入れ歯をはずさせてもらうようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日栄養摂取1500～1800 [*] 。カロリー、水分1500CCを目安に準備しているが、本人の食べる量により主食量を調節したりしている。体重増減が顕著な場合、主治医と相談の上食事量を調整したり、体調不良による食欲減の場合、栄養補助飲料にて補給している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は利用者、スタッフとも全員に。MRSAの方がいたことがあり、対応の取り決めがある。マニュアルはある。	○	直接発症者がいないと忘れがちになりがちなことであるので、研修などを定期的に行い、再確認し合わなければならない。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買ってきた食材はその日のうちに下処理を済ませ、調理済みのものは直前まで冷蔵庫に、まな板などはハイター消毒している。冷蔵庫に賞味期限切れの食材に気づかないことがあるので、全員で注意し合っている。		
の				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	前庭には花壇、広場にはブランコを設置し、犬もおり(犬も近所の顔なじみ)、エントランスには門松やいのぼりなどを飾り付け、季節感を感じてもらえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる飾り付け、花などは欠かさないようにしている。季節を感じられる壁面飾りや、行事やお出かけなどの際の写真をボードに張り出し、利用者や家族の話題づくりとしている。夜間はホールや廊下は間接照明とし、明るさを調節している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや畳、玄関ホールに椅子を配置しており、なかよしさんだったり、一人でそれぞれが自由に過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状態によって様々で、ホーム備品の家具のみの方(居室ごとに違うものになっている)もあり、自宅から箆笥や、テーブル、趣味の作品を持ってこられている。布団類については、みなさん自宅で使用されていたものを使っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇、エアコン、床暖房、加湿器をそれぞれにあわせ使用し、においの気になる方については、居室に空気清浄機を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの配置、いくつかのスタイルのトイレを配置し、屋内ではできるだけ介助しなくても自分でできるように支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見当識低下の方のために、居室前にちょっとした目印や、写真入のカードを貼ったりしている。毎朝の朝食前日付、今日の予定などを夜勤者が説明し、日めくりをめくってもらったり、日にちの感覚を持ってもらえるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や、畑を作り、種まきから、草引き、収穫の楽しみを味わってもらえるようにし、天気の良い日には庭で、お茶を楽しんだり、行事をしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人、家族が望んでくれる限り、最期までを基本としてお世話させてもらっており、開所以来6年以上入居されておられる方々は介護度が高くなっているが、入院されても「水仙の家に帰りたい」ということで、早めに退院されてきても、その人らしい余生をという思いで、スタッフ一同精神誠意お世話してくれていると思っている。元気な方については、日々の散歩はもちろん、「おもしろそう、きれい」と聞けば地域行事、ドライブ、コーヒーの好きな方たちは喫茶店ツアーなどできるだけ出かけてもらい、在宅時よりも活動的な生活をして頂いている。ご家族とスタッフとは親密な関係がもてており、単に面会というのではなく、一緒に時間を過ごす感覚でできただけのご家族もあり、その中で利用者さんのことや、ご家族の想いなどを自然な形で話させてもらっている。